

武蔵野市第六期長期計画策定委員会
圏域別意見交換会（中央）

日 時：令和元年6月30日（日） 午前10時～午前11時59分

場 所：武蔵野芸能劇場 小ホール

出席委員：小林委員長、渡邊副委員長、大上委員、岡部委員、久留委員、栗原委員、中村委員、保井委員、松田委員、笹井委員、恩田委員

事務局が、計画案について、意見交換会の進行について、意見の扱いについて、今後のスケジュールについて説明し、策定委員会委員の自己紹介の後、意見交換がなされた。

【市民A】 これまで、何人ぐらいの意見が反映されているのか。

前の期の総括は、どのぐらいのKPI（重要業績評価指標）に対して語っているのか。何をもちいていい悪いを言い、他市と比較してどの程度いいのか。自主的な市民参加というのは大変いいことだが、その中でどのぐらいの人が参加して、今後どのぐらいのところまで持っていこうとしているのか。そこをもっと見えるようにしてほしい。

10年に一度、長期計画を策定し、5年で見直す時だけでなく、意見交換や市長への手紙のようなことが常にあるといいと思う。それをどういう形で長期計画にまとめるかがもっと見えるほうがよい。

シニア支え合いポイント制度は、もっと多様性を持たせて、若い人にもポジティブな気持ちにさせるようなインセンティブがあってもいいのではないか。

【企画調整課長】 2月に公表した討議要綱に関する市民意見交換会を3カ所で実施し、30名ほどの方の参加があった。関係団体意見交換会は、約180人の方が参加した。その他、パブリックコメントを募集し、市議会の意見、市の職員に対するアンケート等、寄せられた意見は合計約900件である。いただいたご意見と、その対応案は6月15日に市ホームページに公表した。

【副委員長】 現在、武蔵野市も策定委員会も、全てのKPIを数字目標の達成という形にはしていない。数字がひとり歩きしかねないからだ。できた部分、できていない部分を、定量的、定性的なものも含めて評価している。

シニア支え合いポイント制度は、介護保険制度を使っているため、65歳以上の高齢者を対象としている。ただ、このポイント制度の案をつくる段階

から、多様な市民の方に入っただけのようにしてほしいという意見がある。介護予防とは異なる観点で社会参加や社会貢献活動の推進という目標を持った全世代型にしていくのであれば、一般財源化することになり、予算措置が必要になる。今回は主に高齢者を中心としつつ、広げる可能性がゼロではない形を想定している。

【A委員】 策定委員会では、高齢者福祉も大事だが、次の世代をどう育てていくのかについてかなり議論し、重点施策（7）「時代の変化に応じた市民自治のさらなる発展」で「若者世代の参加を促進させるなど」とうたった。また、行・財政の基本施策1で「まちの将来の担い手として期待される若者、子育て世代、転入者などの市政や地域への参加を促し」としたほか、同項（2）「市民参加の充実と情報共有の推進」で、若者世代を初めとしたサイレントマジョリティ層の方たちにどう参加を促して意見を伺うかをテーマに位置づけた。

KPIを設定した具体策は、長期計画の下位にある個別計画の話になるので、長期計画には書いていない。

【市民B】 私が子育てしたころに比べると、支援の体制が随分整い、様々な応援や支援が次々に打ち出されている。しかし、現在子育て中の方は、子どもが小学校に上がった途端、それまでの支援がなくなり、突然厳しい世界に放り込まれたように感じると話す。支援が充実しているというのは、言ってみれば公助の部分だ。子育ては長い年月に及ぶ。たくさんの困難を乗り越えていくには、親が実力を蓄えて、自助で頑張っていかなければいけない。以前は、母親学級つながりでつくられた子育ての共助のグループを市の担当部署が随分支援したということがあった。支援は、公助で手厚くすればいいというものではない。共助で、自分たちで問題解決していけるようになることで、親としての力もつき、育つことができ、みんな落ちついて楽しく子育てできるようになる。個々のお母さん、個々の家庭の支援の次は、共助に発展させられる支援もお願いしたい。

【B委員】 私も、子どもが小学校に入学したときに、情報を自分でとりにいかなければならないなど、それまでの幼稚園や保育園の世界とは違う部分に随分戸惑った。ただ、その後、毎年小学校入学の説明会のお手伝いをしながら、学校側の配慮が年々手厚くなっていることも感じている。個人的には、小学校に上がる子どもを持つ保護者が、母親学級ならぬ保護者学級で、子育てを主体的にされている方と横のつながりをつくり、共助に広げられないかとか、教育委員会や先生が、小学校生活はこう変わるという講座のよう

なイベントを校区ごとに開いてくれたらいいのと思うことがある。

【副委員長】 子ども・教育の基本施策3「子どもと子育て家庭を地域社会全体で応援する施策の充実」の前半に、公助の部分を書いた。共助については、市民の方同士で共有できる情報の発信など、安心できる関係性を構築するまちぐるみでの支え合いが既に行われている。ただ、活動は市で把握し切れないほどたくさんある。それらに対して足りていないこと、こういった支援ができるか等を委員会で共有していきたい。

【市民C】 武蔵野市は、人口増に伴い、宅地が増えて、かわりに緑地や畑が減った。分水路がたくさんあり、水がとうとうと流れていたという三浦朱門の『武蔵野ものがたり』に出てくるような自然は既にはない。市の都市化に一番貢献したのが、昔ながらの水路だ。水路は道路に変わってしまった。水路の歴史が消えていくことが残念でならない。下水道は、伝染病がはやったことから整備された。そういう歴史がわかるような統計がない。歴史を見て、未来はどうあるべきかが類推できる長期計画を考えてほしい。

【委員長】 今回の計画案は、大部になることを避けるために、載せる統計を限定している。また、実際の様々な統計は、個別の計画に載っている。

【C委員】 長期計画の下に緑の基本計画あるいは下水道総合計画といった基盤系の計画があり、これまでの経緯を記述している。それらの基盤系は武蔵野市の歴史とともに変化しており、今後は、人口の推移も含めて計画する形になっている。

【委員長】 武蔵野市地域生活環境指標には様々な統計が載っている。ただ、この計画を未来に向けて動かしていくのであれば、これまでどうだったかという基本部分について載せるべきだと私も思う。検討させていただきたい。

【市民D】 平和・文化・市民生活の基本施策4の(2)「市民活動支援策の検討」の「より効果的な支援策を検討していく」は、どういう目的と成果、支援を考えているのかがわからない。

【D委員】 市民活動の支援の重要性については強く認識している。策定委員会でも議論した。ただ、支援の具体策を載せるのは、長期計画にそぐわない。具体策は、個別の委員会等で決めていくものだ。重要性については非常に議論したということをお伝えしておく。

【市民E】 4「市政を取り巻く状況について」の(2)の将来人口推計によると、現在の人口14万人が30年後には2万人増の16万人になるとの

ことだが、それをベースにこの長期計画を走らせていいのか。市は、住宅地、農地の宅地転換、高層マンション化等、どのような都市計画で受け入れを想定しているのか。この先、日本全体の人口は1億2,000万人から減少して1億人になると言われている。市の予測どおりにいかなかった場合、誰が責任をとるのか。

77 ページの「参考」の長期財政シミュレーションは、財源不足累計額が伸びるという予測を示している。また、「投資的経費については、市民ニーズの変化等も踏まえ、その規模や質を見直すことにより、圧縮は可能である」と書かれているが、前提となってる人口推計自体がこれでいいのか。財源不足になるとわかっているのであれば、武蔵野市は、三鷹市の1.4倍という市民1人当たりの公共施設の規模も見直さなければいけないのではないのか。

【E委員】 人口推計についてはご指摘のとおりだが、生産緑地が減少し、大きなマンションが次々と建設されているということではない。人口の増加も、例えば工場や社宅の跡地、一戸建ての跡地にマンションが建つ、あるいは4階程度の老朽化マンションが13階建てになるという転換が行われ、そこにファミリー層等が流入したこと、外国人の比率が飛躍的に伸びたこと等による。

第六期長期計画期間中の5年ないし10年は、このような傾向は大きく変わらないだろうと推計しているが、大きく食い違ったときのためのルールを新たに構築した。総人口が推計から1%ずれた場合は、改めて人口推計を見直し、微調整する。武蔵野市は、今後も今までと同じように住環境を守りながら、より魅力的で活力あるまちづくりを進める。

【市民F】 基本目標、基本課題に伴って、重点施策がどういう構造的なつながりで記載されているか、何度読んでもわからない。特に、これからはいろいろなものが相互関連して成り立つが、重点施策に関しては縦割りだ。重点施策は、基本的な考え方をベースに、プロブレムではなく、イシューに対応していくものだと思うが、その構造が全く見えない。

武蔵野市は市民参加が原則だ。市民の方はそれなりに勉強しているが、実施計画を成り立たせる市議会議員の方たちの不勉強が目立つ。どういう形で勉強していただき、地域の仲介者となっていただくかについて、長期計画の中には全く見えない。市民が勉強して市民参加しようと思っても、いきなりは対応していけないので中継ぎしてくれる方が必要だ。そこをもう少し詳細に議論して、記述していただきたい。

【委員長】 重点施策の構造の部分がわかりにくいというご意見は、以前に

もいただいている。どうすればわかりやすくなるか、私たちも考えてはいるが、具体的に案があれば、いただきたい。

議員の問題については、議員の方々からも言われているが、長期計画で書けるかどうかという問題がある。ただ、計画をつくって、個別に実施していく際に最も重要な決定権を持つ方たちに関することは、何らかの形で検討したい。

【市民G】 市民活動をするためのコミュニティセンター、市の公会堂等の公共施設はライフサイクルごとに計画されていくと思うが、それらはどこをどう見ればわかるのか。計画案の中では読み取りにくい。

金沢市民芸術村のような、発信型ではなくて、芸術を育てていくプロセスを大事にするような施設を武蔵野市にもつくることで、より文化の醸成のようなことがしやすくなるのではないか。公共施設のファシリティマネジメントがどうなっているのかを聞きたい。

【A委員】 ファシリティマネジメントは、個別計画の公共施設管理計画に書かれており、長期計画では積極的な書き込みをしていない。

金沢の芸術を育てる仕組みは、確かにすごい。一方で、あれは公共だけが仕掛けたわけではない。地元の職人、芸術家、それを支える旦那衆や金沢21世紀美術館のキュレーターたちが今の仕組みをつくり上げた。伝統文化を基礎に、人の力が総合されて、金沢のまちは芸術産業の創出が進んでいるが、都市型文化を抱える武蔵野市がそれをどう実現させていくのかという課題については、考える必要がある。

今回の長期計画は、今まで余り位置づけてこなかった芸術産業の創出、産業振興をかなり位置づけた。長計という最上位にある行政計画としては、現状のような書きぶりが適切だと考えている。

【委員長】

武蔵野市は、これまでホールも含めて文化施設を多くつくってきた。どういう形で整理して新たな形にしていくのかが今後問題になってくる。今の時代に合わない施設もでてくる中で、文化施設のあり方をこれから検討していく必要がある。まさにこれから話をはじめていくところである。

【市民A】 計画の中で、基本理念と事業分野をクロスさせることは難しい。まずは人口や緑などはどのぐらいのところをイメージしているかという大きなフレームを決めたほうがいい。例えば、人口推計は、「計画値」でも「予測値」でもなく、あくまでトレンドであるので、人口が増えても緑は減らさ

ないという守るべきフレームは明確に書く。財政力指数も 1.45 と、かなり高くて大変結構だが、これをいつまで守るのか。例えば、1 は切れないといった範囲で運用するという理念や精神をどこかに書く。それぞれの施設が何年に建替えかという現状分析よりも、予算平準化のために前もって順番を含めて、どういう幅で動かせば市の予算に大きな影響を与えないかを、めり張りのある言葉でおさめなければ、理解は進まない。

このような会を設けなくても、意見を持っている方は多い。市民が意見を出せる場合は、長期計画だけでなく日頃から随所に設けて、みんなが共有し、そこから各委員は、自分の意見が偏っているか、いないかというバランスをとることが極めて大事だ。後から入ってきた若い人たちが遠慮なく物を言えて、みんな声を上げているのだから私もと思える環境にしていくことも大事だ。

【F 委員】 重点施策と基本施策の関係は、計画案の 84～85 ページに体系立ててまとめているが、わかりにくいというご指摘はもつともだ。いい表現方法やまとめ方があれば、ご指摘いただきたい。

【市民 A】 細かいことが幾つも書かれていると、余計わからなくなる。緑が将来的にどのぐらい守られるのかを書いていない。フレームが必要だ。

【委員長】 ご指摘の点は、いろんなどころにちりばめられている。それをどう見せればわかりやすいかは、さらに努力して考えたい。

日ごろの意見の共有をどういう形で行うのがいいかは、市民自治を掲げる武蔵野市としては積極的に考えていく必要がある。ただ、市も長期計画策定のためには様々な工夫をしている。今回も、中高生のワークショップのような新しいことに挑戦している。日頃から、という点については検討したい。

【H 委員】 私が知る限りでは、これほど丁寧に意見を吸い上げている市の計画はない。ただ、フレームの策定は非常に難しい。首長、議員がかわるし、市民も入れかわる中で、その時々判断はある。数値として堅持すべきものがあるかという点、本市では市民がチェックするという牽制機能を相当強くおいている。また、自治とはそういうものだとは私は認識している。私ども策定委員会はそれを調整する。賜ったご意見を常に受けとめる環境にあることはご理解いただきたい。

【市民 A】 ここまでやっているところはないからこそ、イベント型に終わらせてはいけない。常日ごろから市民が長期計画を十分理解して、質問なり意見が述べられる環境に持っていく努力をしていただきたい。

【A 委員】 武蔵野市は極めてゆとりがある財政状態にある。今後においても過度な心配はないと、明確に書いた市計画は余りないはずだが、今回は、

日本でもトップレベルの財政力指数を持ち、積極財政もできると書いた。

ただ、それが 30 年、50 年続くわけではないことから、リスク要因も示して、財政規律を守るための仕組みをつくる必要があるとしている。ここは市長と議論した点でもあり、委員会での議論とあわせて、73 ページに「経常収支比率を今後も 88.0%以下に抑える」と書いた。もしこれが逸脱するとなれば、それは市議会が機能しない、あるいは市民の意見が機能しないという、民主主義の根幹がずれているときだ。計画としてのフレームワークは今回きっちり作り込んだ。

【G 委員】 重点施策とか重点目標のところのところがわかりにくいというのは同感だ。私も当初は、同じようなことを思ったが、わかりにくさをいろいろ議論した結果、このようになった。

ただ、どうしても行政の縦割りでボトムアップで情報が出てくるため、共通目標が見えなくなる。私が担当する都市基盤も、緑のことや産業などと連動するが、別々のところに書かれているので、どこが主体になって進めるのかがわかりにくい。

クラウド等の発達により、市民の情報の共有方法も色々あるだろう。今回の長期計画では難しいかもしれないが、武蔵野市方式という先人が築き上げてきたやり方も、少しずつ変えながら、新しい市民自治、長期計画の形にしていくことを検討させていただきたい。

【市民 B】 当事者本人が実力を蓄えるには、学びの場が必要だ。それは社会教育の範囲だ。各種サービスの提供や、支援をする一方で、本人たちが学べる仕組みづくりにも市がかかわるということを長期計画で盛り込んでほしい。市民会館が社会教育施設としてあるので、ぜひそこを活用していただきたい。

緑・環境の基本施策 3 「『緑』を基軸としたまちづくりの推進」の (3) 「緑と水のネットワークの推進」はとても大事な点だ。緑地が 1 つあっても、生き物が生きていくには足りない。緑地は広ければ広いほどいいが、都市部では、どうしても点々としてしまう。生き物が移動できて、繁殖の可能性を持てるようにする意味でも、「ネットワークの推進」は重要だ。

ただ、4 行目の「利用されなくなった公園緑地については、魅力向上のため、リニューアルを推進していく」は、「生物多様性基本方針に従って、人と生き物に優しい公園を目指したリニューアルを推進していく」という趣旨の文章にしてほしい。3 段落目の文章を移動して、「生物多様性基本方針に従って、人と生き物に優しい公園」としてはどうか。

同項3段落目の「生態系ネットワークを強く意識しながら」がよくわからない。武蔵野市は全小学校に学校ビオトープをつくっている。ビオトープは、そもそもの設置のときから、水辺と緑地を強く意識したものだ。ここは「生態系ネットワークを構成する重要な要素の1つとして、学校ビオトープを活用し」としてほしい。学校ビオトープ等を活用して、水と緑のネットワークの推進を有意義なものにしていきたい。

【F委員】 市民の方々から多くの意見等をいただいて、委員会でも随分勉強し、計画案に反映した。エコロジカルネットワークという概念は、私自身、この委員になって初めて知った。提案のあった文章については検討する。

ビオトープに関しては委員会でもかなり議論した。ただ、ビオトープは、点在する自然という意味では価値あるものだが、学校の中にあるため、踏み込めない部分がある。今後も学校と協力、連携し、充実を進めていくとした場合、ビオトープは具体的にどこに書き込めばいいか。ビオトープは、生物多様性基本方針の前段に含まれることから、私は書く必要はないと判断した。

【市民B】 ビオトープは、お金を投じてつくったのに放置されている印象を市民は持っている。これの管理は難しいが、続けていかなければ、校内に無駄な施設があることになってしまう。

【F委員】 ビオトープの整備、充実の一層の推進をしてほしいというご意見として承る。

【副委員長】 当事者の学びの仕組みとして、子ども・教育の基本施策2の(1)に、今、都市的な環境で、周りに必ずしも支援者がいない中で保護者が学びや情報交換、ネットワークづくりを進められるよう、利用者支援事業を記載している。子育て期だけでなく、その前後にも大事なことだ。ご意見は今後の参考にさせていただきたい。

学校ビオトープは、学校教員の多忙化、セキュリティーの問題等から、管理が難しい状況にあることを策定委員会としてもかなり深刻な問題として受けとめている。学校施設整備基本計画の動向を見つつ、学校ビオトープについては多くの関心を持ちながら議論している段階であることをご理解いただきたい。

【市民D】 市民活動の部分で、どういうことを検討しこの記載になったのかを教えていただきたい。

職員の市民率は3割だと思っていたが、2割を切ったという話を一昨日の吉祥寺での意見交換会で聞いて非常に驚いた。長計の中に、職員の市民率を上げることは書き込まれているか。この計画の根本である6「第六期長期

計画における基本課題等について」の（４）には「このまちにつながる誰もが 住み・学び・働き・楽しみ続けられるまちづくり」とあるが、市職員が住まない・住み続けられないのは、いかがなものか。

武蔵野市民科について。子ども・教育の基本施策４に「シチズンシップ教育として、教育課程に『武蔵野市民科』」とあるが、この内容についての議論が足りないと思う。教育委員会内部の議論だけで保護者の理解を得られるのか。市民科については市民を交えてしっかり議論するべきだ。

【D委員】 市民自治を前提としている以上、策定委員が、例えばコミュニティセンターはこう運営してください、お金をこう出せばいいということを決めること自体おかしいと私は考えている。委員会の中では、重要だけれども、こういった形で策定委員会として書き込めるか難しいという議論をしている。

【委員長】 職員の市民率が２割を切った件は、地価が高いなどの問題もあるのではないかと。例えば、港区の職員の在住率は非常に低いですが、区の職員としての職務を果たせないというわけではなく、むしろ専門性を持って職務を担っていると聞く。また、プライベートと仕事の境がなくなるようなことはしたくないという職員もいるはずで、難しい面がある。

【E委員】 職員は、どこに住んでいても武蔵野市民とともに行政ができることが大事だ。また、職員採用は、幅広く公平な試験を行わなければいけないため、武蔵野市民を優先した採用はできない。ただ、大災害が起こった場合、市の職員が駆けつけて、市民の皆さんの安全確保に迅速に対応できるのかということについては危機感を持っている。そのために、災害用職員住宅という形で、災害時に優先的に対応できる職員を市内に住まわせる住宅政策をとっている。いずれにしても、どこに住んでいようとも、武蔵野市に対する愛情と市民サービス向上の意識を持った職員を多く育てることが重要だと思っている。

【副委員長】 武蔵野市民科は、教育指導要領で決まっているものではない。今後十分変えることができるものだ。どのような形で皆さんの意見を反映できるか、私のほうで持ち帰り、検討させていただきたい。

【市民C】 緑・環境の基本施策３の（３）は、「緑と水のネットワーク」という割には水のことが完全に薄れている。いま一度、水について見直してほしい。境村分水、梶野分水のことが武蔵野市史に載っていない。都市化はいいが、都市化で壊れてしまった生物多様性が息を吹き返すには、水辺が絶対必要だ。

以前に提出した文書に対する回答は、どういう形で出ているのか。

【F委員】 私自身も、水辺と街路樹でつなぐエコロジカルネットワークは大事だと思っている。ただ、基本施策3の(3)は「水辺」という言葉が書いてない。生態系ネットワークを保全し、環境を育てていくという表現にすることを委員も市も合意しているところだ。文案をお持ちであれば、後刻いただきたい。

【委員長】 いただいたご意見にどう対応しているのかは全てホームページで見ることができる。ホームページをごらんになれない場合は、紙でお渡しするので、事務局にお声がけいただきたい。

【市民H】 若い世代は、子どもでもない限り、行政サービスを能動的に使う機会がないに等しい。既存のサービスを使おうにも手間が多く、税金を払うことに納得感が持てない。一方で、興味関心は、日ごろ目にするものに強く影響される。どんなにしっかり作り込んだ計画であっても、感情をくすぐるものになっていなければ、若い世代の自発的な興味を引き出すことは難しいのではないか。

今、仕事の仕方が変わりつつあることから、職場に行かずに働く人が増えている。選べる立場の人は、より利便性の高い都心もしくは生活コストの低い地域に移り住む。武蔵野市がいい、武蔵野市でなければという選ばれ方につながる投資は、この計画案のどこに含まれるのか。財政的には安定している今だからこそ、シティブランディングやシティプロモーションをもっと重視してほしい。千葉県流山市のように子育て一点突破のPRに集中的に投資した結果、市民が流入したり、新たな地域活動が増えたりした良い事例もある。

【A委員】 そこは結構頑張って書き込んだつもりだったが、足りないところはどんどん指摘してほしい。

武蔵野市は、都市化が進み、様々な土地所有者がいて、景観の問題でも、住民の意見と商業者の意見が真っ向から対立する。その結果、吉祥寺の駅のホームから一番目立つところにラブホテルの看板が掲げられてしまうという、シティプロモーションどころかシビックプライドもない状況にある。第六期長期計画では、市民の中の愛着をつくっていかなければ市民自治は定着しないということをしっかり位置づけ、精いっぱい強調した。武蔵野市は、この10年間で勝負時だ。ここをどう乗り越えていくかだ。

【G委員】 若い人たちに積極的に武蔵野市を選んでいただけるように、新しいライフスタイルを生かした産業のあり方について、策定委員会の中でも

随分議論した。基本課題Bの「まちの活力の向上・魅力の発信」には、事業者、市民、行政が一緒になってブランディングを図り、役割分担しながらやっていけるようにという道筋について書き込んでいる。

【市民I】 長計と個別計画の関係性や、個別計画にあるので長期計画に入っていないということを市民としてどう読み取ればいいのかがよくわからない。

7「重点施策」の(2)「武蔵野市ならではの地域共生社会の推進」に子どもと子育てに対することが書かれ、以下、緑、建物、交通アクセスのことが書かれている。地域共生社会、多様性ということが、言葉をかえながら随所に書かれているが、基本的なところをもっとわかりやすく書いて、具体的にどうしていくのかを個別計画に丁寧に書いたほうがいいのではないか。

8「施策の体系」の(2)子ども・教育に「この分野の施策は、子どもが基本的人権をもつ存在であり、子どもの最善の利益を第一に考えることを前提とする」と書かれている。策定委員会では、これまでも子どもの人権、子どもの権利のことを入れたほうがいいということを議論している。「子どもが基本的人権をもつ存在」ということは、親にも子どもにも意外と知られていない。後段の用語説明で、子どもの人権とはどういうものかを書いてはどうか。障害のある子にも子どもの権利があるということを詳しく、丁寧に書いてほしい。

【委員長】 長期計画は、この10年間の大きな枠組みを示すもので、個別的問題、具体的な施策、事業に至る部分は個別計画に落とし込む形になっていることを4ページの図に示した。委員会では、長計と個別計画とを全部網羅した電話帳のようなものをつくってはどうかとか、それらが全部一度に見られるアプリをつくってはどうかというアイデアが出されたが難しい。

子どもの人権のことについては、全くそのとおりだ。

【副委員長】 用語説明等に、条約に書かれていることを簡潔に記載することを前向きに考えたい。

【市民J】 計画案6ページの策定スケジュールを見ると、策定委員会は、市民意見交換会、市議会への説明、庁内推進本部のヒアリングをしているが、この長期計画策定委員会は、市長から委嘱された委員会だ。意見交換会等のことは市長に報告しているか。副市長が2人、委員として出ているからいいというのであれば、市長はどのような立場か。市長が十分に把握していなければ、策定委員会でどんなに努力しても、最後に議会で、そんなものはどうで

もいいという話にされてしまう。

先ほどから、子どもの問題、緑の問題が出されているが、まちづくりとあわせて環境の問題に関する副読本をつくってはどうか。生活環境指標は、一定の理解ができる人が見るものだが、一般の市民の誰もが子どもと環境について話せるというものがあるといい。学校教育の中で使っているものを教育委員会などで再編し、自分の住んでいる環境をみずから体験するための指導要領とすることを長期計画の中の個別的な事業として入れてはどうか。

第一期長期計画以来、武蔵野市方式を崩さず保ち続けているが、このところの長期計画は、政官主導型の性格が強くなっているように思う。長期計画は政官主導でなければつukれないのかということ念頭に置きながら、策定の検討を進めていただきたい。

生態系を含めた水と緑の問題について、国は4年ほど前からグリーンインフラストラクチャー、グリーンインフラ政策、グリーンインフラ構造ということを取り上げるようになった。武蔵野市方式で既にやってきたこと自体がグリーンインフラにつながる。こういう言葉をどこかに使ってはどうか。

【市民E】 88%のシーリングは、いい取り組みだ。人口推計が1%ずれたら見直すというのは、ぜひ記載してほしい。

武蔵野市は豊かだが、その税金を公共施設建設に投入している。A委員のいうとおり、この先も当分は豊かとはいえ、やがてはリスクが生じる。公共施設の削減目標を設定してほしい。削減した分は、子育てや高齢者福祉にかかる費用あるいは首都直下型地震があったときの復興費用等に使うというビジョンを示してほしい。

77 ページ、参考「長期財政シミュレーション」の一番最後の2行について。「持続可能な財政運営を行っていくことが重要である」という文末は、他人事のようだ。「持続可能な財政運営を行っていく」と変えてはどうか。

【市民B】 学校ビオトープは、学校にとっても大事な教育の場だ。管理できるかどうかわからないから載せられないというのであれば、「学校ビオトープの活用を検討する」という一文を入れることで、どうするかはその後の課題ということになるのではないか。

【市民D】 発達障害を持つ児童の保護者から、特別支援学級のカリキュラムがひどいという話を聞いた。普通級とは余りに違うので、学校にかけ合っても、全然相手にしてもらえないとのことだ。こういうお父さん、お母さん

は、声を上げづらい状況にある。小中一貫も市民科も、教育委員会は決めたことをおろしてくるだけだ。子ども・教育の基本施策4の(5)に「一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実」とするのであれば、教育委員会は当事者と対話し、ニーズを把握して、状況の改善につなげてほしい。

【市民C】 公会堂は寿命に来ている。井の頭池絡みで、自然環境センターの創設をしてほしい。

【市民A】 公共施設は、建物によって維持管理費の効率が違う。維持管理費等のコスト面は、マクロではなく、ミクロに見て、市民感覚で評価できる環境が必要だ。

今日ここに集まっている方は、かなり勉強して、計画案を読み込んで、質問している。それでも、体系など、わからないところがたくさんある。これでは一般の市民にはわかりづらいのではないか。日ごろからどんな意見が出ているか、見えるようにしておく必要がある。

【委員長】 市民Jさんのご意見について。市長とは、来週(7月5日)意見交換をする。

【C委員】 日常的には、企画調整課が中心になって、市長に策定委員会の動向を報告している。そのときに市長からの確認、指示もある。また、庁内推進本部で、各所管の部長にレクチャーしている。

【委員長】 政官主導型になってきているかもしれないという部分について。私たち長期計画の策定委員は、調整役だ。みんなそれなりの意見を持っていて、市とも相当にやり合って調整をしている。私たちの意見が通るところもあるし、通らないというところもあるし、行政の人たちの力の強さを感じることも多々ある。それでも何らかの形で10年を見据えてやっていこうと私たちも相当に努力していることはご理解いただきたい。

賜った皆さんの意見は、何らかの形で検討し、反映させ、何らかの形で返ししていきたい。

事務局が、意見交換会終了後の追加意見の提出方法を説明し、圏域別意見交換会を閉じた。

以 上